



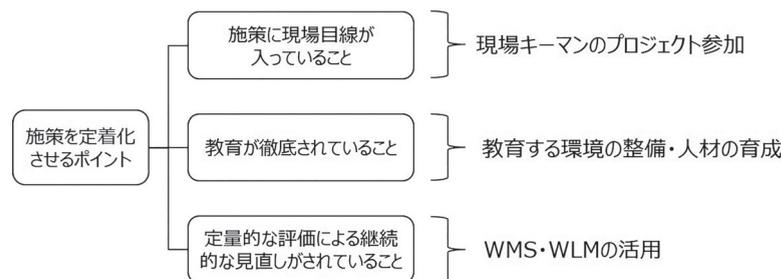
今回は、倉庫内の業務改善・管理に焦点を当て、改善を成功させるための具体的なポイントを解説していく。業務の生産性と品質の向上を実現するには、第2回、第3回でも説明したように重要なポイントは、

作業者目線、取り入れること

今回、倉庫内の業務改善・管理に焦点を当て、改善を成功させるための具体的なポイントを解説していく。業務の生産性と品質の向上を実現するには、第2回、第3回でも説明したように重要なポイントは、

# 庫内業務の改善ポイント

## 業務改善を成功させる「定着化」



参加の程度や場面は慎重に検討する必要がある。

次に定着に必要なポイントになるのは「教育の徹底」だ。新しい手順やルールを、書いたマニュアルを作成して、提示するだけでは誰も付いてこない。実践を伴う教育を関係者に漏れなく行い、新しい手順だけでなく、「何のために行うのか」という

目的まで理解させ、新しい手順・ルールが現場で当たり前になるまで定期的なチェックを行う。確認の方法は、改善策の検討時に併せて、考えておくことよ。

また、教育の徹底を行うと、現場作業から一時的な反発が想定され、現場で恐れずに指揮を執ることの

### WMSのデータを活用する

改善効果の度合いに對する正しい評価は、主観的なL M (倉庫労務管理システム) を WMS と連携させることで、作業者ごとの生産性を見える化し、より緻密に改善効果の検証を行うことができる。

無理に力で従わせるのではなく (倉庫管理システム) を活用する。WMS をハンディターミナル端末と連携させて、可能な範囲で改善に取り組み、現場の良き理をデータ化し在庫管理することは一時的に行われてい

だが、データを業務改善の WMS も多く登場し利用に十分に活用できている企業は多くはない。今回は WMS 導入のポイントについて述べる。

現場キーマンのプロジェクト参加、教育する環境の整備・人材の育成、WMS・WLMの活用

現場キーマンのプロジェクト参加、教育する環境の整備・人材の育成、WMS・WLMの活用

クニエ  
ロジスティクスグループ  
大室 翔史  
マネージャー

おおむら・しょうじ 2010年米ナショナル大経営学修士、外資系3PLプロバイダーで複数の倉庫の立ち上げ運営管理を経験。後に日系コンサルティングファーム勤務を経て、17年クニエ入社、現職。物流領域での業務改革やシステムコンサルティングを手掛ける。